

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／株式	
信託期間	無期限（2009年3月18日設定）	
運用方針	優良日本株マザーファンド受益証券への投資を通じて、わが国の株式に実質的な投資を行い、信託財産の成長をめざします。銘柄選定にあたっては、競争力のある優良企業の株式の中から、株価の割安度等に着目して30～50銘柄程度に投資を行います。当ファンドにおいて「競争力のある優良企業」とは、業界内のシェアや株主還元、財務の健全性等の観点で、相対的に評価が高いと委託会社が判断する企業をいいます。マザーファンド受益証券の組入比率は高位を維持することを基本とします。	
主要運用対象	ベビーフンド	優良日本株マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。なお、わが国の金融商品取引所上場株式に直接投資することがあります。
	マザーファンド	わが国の金融商品取引所上場株式を主要投資対象とします。
主な組入制限	ベビーフンド	株式への実質投資割合に制限を設けません。外貨建資産への投資は行いません。
	マザーファンド	株式への投資割合に制限を設けません。外貨建資産への投資は行いません。
分配方針	経費等控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額とし、分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して委託会社が決定します。原則として、決算日の基準価額水準が当初元本額10,000円（10,000口当たり）を超えている場合に、当期の基準価額上昇分の範囲内で分配します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。	

運用報告書（全体版）

優良日本株ファンド

愛称：ちから株

第30期（決算日：2024年6月5日）

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。さて、お手持ちの「優良日本株ファンド」は、去る6月5日に第30期の決算を行いました。ここに謹んで運用状況をご報告申し上げます。今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。



三菱UFJアセットマネジメント

東京都港区東新橋一丁目9番1号
ホームページ <https://www.am.mufg.jp/>

当運用報告書に関するお問い合わせ先

お客さま専用
フリーダイヤル

0120-151034

（受付時間：営業日の9:00～17:00、
土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く）

お客さまのお取引内容につきましては、お取扱いの販売会社にお尋ねください。

ファンドマネージャーのコメント

当期間の運用で主眼を置いたポイントを説明させていただきます。

投資環境

半導体関連企業の業績拡大期待の高まりや外国為替市場で円安・米ドル高が進行したことなどを背景に国内株式市況は上昇しました。

運用のポイント

競争力のある優良企業の株式の中から割安と判断される銘柄に厳選して投資することにより、値上がり益の獲得をめざすべく、運用を行ってまいりました。また、組入銘柄・組入比率は割安度・競争力・業績動向などを総合的に考慮して決定しました。

組入銘柄数は概ね49～54銘柄程度で推移させました。株価水準・企業の競争力・業績の変化などを勘案し、より割安と判断される銘柄への入れ替えを機動的・継続的に行いました。当期間ではソフトバンクグループやりそなホールディングスなど20銘柄を新規に組み入れました。また、LINEヤフーや伊藤園など20銘柄を全株売却しました。

日本を代表する大型株に加えて、高い競争力を持つ中小型株も積極的に組み入れました。また、業種比率を適切に管理することで、ボトムアップリサーチによる銘柄選択効果に超過収益の創出を集中する運用に努めました。

上記の運用を行った結果、組入銘柄の株価上昇により、基準価額は期間の初めに比べ17.1%（分配金再投資ベース）の上昇となりました。

運用環境見通しおよび今後の運用方針

当面の国内株式市況は、国内における賃金上昇を背景とした購買力の高まりや企業の収益性重視の姿勢により国内企業業績の拡大が期待され、底堅く推移する展開が想定されます。

チームによる徹底したボトムアップリサーチ体制のもと、定量面及び定性面から徹底的な銘柄分析を行い、値上がり益の期待出来るストックピックでパフォーマンス向上に努める所存です。



株式運用部
ファンドマネージャー
友利 啓明

本資料の表記にあたって

- ・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。
- ・一印は組入れまたは売買がないことを示しています。

○最近5期の運用実績

決算期	基準価額			(参考指数)		株組入比率	株式先物比率	純資産額
	(分配落)	税込分配金	期騰落率	東証株価指数(TOPIX) (配当込み)	期騰落率			
	円	円	%		%	%	%	百万円
26期(2022年6月6日)	16,467	0	△ 0.5	3,133.45	1.0	97.0	—	23,129
27期(2022年12月5日)	16,545	100	1.1	3,187.97	1.7	96.0	—	22,708
28期(2023年6月5日)	17,935	1,000	14.4	3,685.98	15.6	97.6	—	22,613
29期(2023年12月5日)	18,269	350	3.8	3,932.53	6.7	96.4	—	22,767
30期(2024年6月5日)	19,888	1,500	17.1	4,668.91	18.7	97.3	—	30,656

(注) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注) 基準価額動向の理解に資するため、参考指数を掲載しておりますが、当ファンドのベンチマークではありません。

(注) 東証株価指数(TOPIX)(配当込み)とは、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出される株価指数です。TOPIXの指数値及びTOPIXに係る商標又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利・ノウハウ及びTOPIXに係る商標又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

(注) 「株式先物比率」は買建比率-売建比率。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		(参考指数)		株組入比率	株式先物比率
	騰落率	騰落率	東証株価指数(TOPIX) (配当込み)	騰落率		
(期首)	円	%		%	%	%
2023年12月5日	18,269	—	3,932.53	—	96.4	—
12月末	18,641	2.0	3,977.63	1.1	98.4	—
2024年1月末	20,056	9.8	4,288.36	9.0	98.1	—
2月末	21,075	15.4	4,499.61	14.4	98.5	—
3月末	21,584	18.1	4,699.20	19.5	97.4	—
4月末	21,132	15.7	4,656.27	18.4	97.7	—
5月末	21,467	17.5	4,710.15	19.8	97.5	—
(期末)						
2024年6月5日	21,388	17.1	4,668.91	18.7	97.3	—

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

(注) 「株式先物比率」は買建比率-売建比率。

運用経過

第30期：2023年12月6日～2024年6月5日

当期中の基準価額等の推移について

基準価額等の推移



第30期首	18,269円
第30期末	19,888円
既払分配金	1,500円
騰落率	17.1%
	(分配金再投資ベース)

※分配金再投資基準価額は、分配金が支払われた場合、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

※実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、受益者のみなさまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人の受益者のみなさまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

基準価額の動き

基準価額は期間の初めに比べ17.1%（分配金再投資ベース）の上昇となりました。

基準価額の主な変動要因**上昇要因**

半導体関連企業の業績拡大期待の高まりや外国為替市場で円安・米ドル高が進行したことなどを背景に国内株式市況が上昇したことが、基準価額の上昇要因となりました。

下落要因

日銀の金融政策修正後に国内長期金利が上昇したことなどを受けて国内株式市況が一時的に下落したことが、一時的な基準価額の下落要因となりました。

銘柄要因

上位5銘柄・・・日立製作所、ソフトバンクグループ、三菱UFJフィナンシャル・グループ、大阪ソーダ、カプコン

下位5銘柄・・・日本製紙、伊藤園、SCREENホールディングス、大真空、日本電信電話

第30期：2023年12月6日～2024年6月5日

投資環境について

▶ 国内株式市況

国内株式市況は上昇しました。

期間の初めから2024年3月末にかけては、半導体関連企業の業績拡大期待の高まりや外国為替市場で円安・米ドル高が進行したことなどを背景に国内株式市況は上昇しました。

4月から期間末にかけては、引き続き外

国為替市場で円安・米ドル高が進行したことなどは国内株式市況の下支えとなったものの、日銀が金融緩和策を修正するとの懸念が高まったことや金融政策の修正後に国内長期金利が上昇したことが嫌気されるなど、一進一退の展開となりました。

当該投資信託のポートフォリオについて

▶ 優良日本株ファンド

優良日本株マザーファンド受益証券を通じて、わが国の株式に投資しています。

▶ 優良日本株マザーファンド

競争力のある優良企業の株式の中から割安と判断される銘柄に厳選して投資することにより、値上がり益の獲得をめざすべく、運用を行ってまいりました。また、組入銘柄・組入比率は割安度・競争力・業績動向などを総合的に考慮して決定しました。

組入銘柄数は概ね49～54銘柄程度で推移

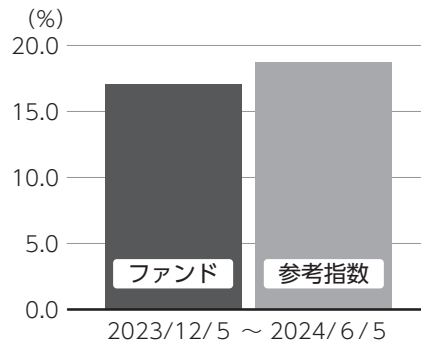
させました。株価水準と企業の競争力や業績の変化などを勘案し、より割安と判断される銘柄への入れ替えを機動的・継続的に行いました。当期間では、プロセッサの設計を手がけるアーム事業の業績拡大を予想するソフトバンクグループ、国内金利の上昇による収益改善や株主還元の拡充を期待するりそなホールディングスなど20銘柄を新規に組み入れました。また、相対的な魅力度を勘案しLINEヤフーや伊藤園など20銘柄を全株売却しました。

当該投資信託のベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。右記のグラフは当ファンド（ベビーファンド）の基準価額と参考指数の騰落率との対比です。

参考指数は東証株価指数（TOPIX）（配当込み）です。

基準価額と参考指数の対比（騰落率）



※ファンドの騰落率は分配金込みで計算しています。

分配金について

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額の水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項目	第30期 2023年12月6日～2024年6月5日
当期分配金（対基準価額比率）	1,500 (7.013%)
当期の収益	1,500
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	9,887

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針 (作成対象期間末での見解です。)

▶ 優良日本株ファンド

優良日本株マザーファンド受益証券の組入比率は、引き続き高水準を維持する方針です。国内株式の実質組入比率についても、概ね90%以上の水準を維持する方針です。

▶ 優良日本株マザーファンド

わが国の競争力のある優良企業の株式の中から、割安度等に着目して30~50銘柄程度に投資を行います。

投資の主な対象となる「競争力のある優良企業」とは、以下に該当する企業の中から、相対的に評価が高いと当ファンドが判断する企業です。

- ・健全なバランスシートを保有している企業
- ・業界内におけるシェアが高い企業

・株主還元 to 積極的な企業

「競争力のある優良企業」の観点では、「業界内におけるシェアが高い企業」に注目しています。そうした企業は優れた製品やサービスを武器に中長期的に売上・利益を拡大させていくことが期待できます。今後も企業調査を強化し、「競争力のある優良企業」の発掘に注力します。日銀の金融政策変更による今後の金融環境を注視していく必要はありますが、国内における賃金上昇を背景とした購買力の高まりや企業の収益性重視の姿勢により国内企業業績の拡大が期待できると考えています。そうしたなか、「競争力のある優良企業」の中で、さらに「割安」な銘柄に厳選して投資することで、個別銘柄選択効果によるパフォーマンス向上に努める所存です。

2023年12月6日～2024年6月5日

1万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要
	金額 (円)	比率 (%)	
(a) 信託報酬	112	0.549	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 × (期中の日数 ÷ 年間日数)
(投 信 会 社)	(51)	(0.253)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(51)	(0.253)	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(9)	(0.044)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	18	0.090	(b) 売買委託手数料 = 期中の売買委託手数料 ÷ 期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
(株 式)	(18)	(0.090)	
(c) その他費用	0	0.001	(c) その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0.001)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
合 計	130	0.640	

期中の平均基準価額は、20,336円です。

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

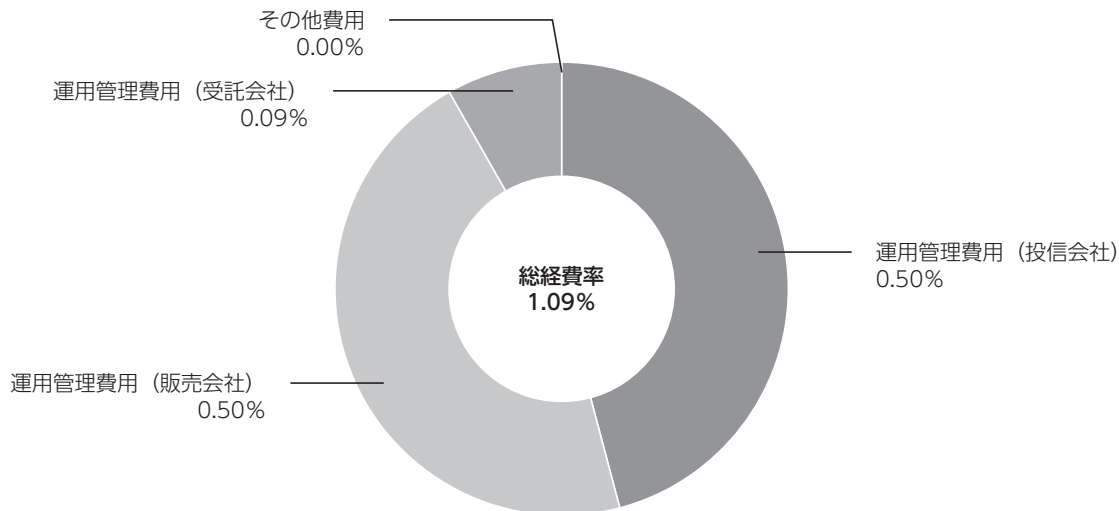
(注) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

■ 総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は1.09%**です。



(注) 費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 前記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2023年12月6日～2024年6月5日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘柄	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
優良日本株マザーファンド	千口 1,030,563	千円 6,875,542	千口 433,336	千円 2,970,891

○株式売買比率

(2023年12月6日～2024年6月5日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期	
	優良日本株マザーファンド	
(a) 期中の株式売買金額	40,687,542千円	
(b) 期中の平均組入株式時価総額	30,798,448千円	
(c) 売買高比率 (a) / (b)	1.32	

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

○利害関係人との取引状況等

(2023年12月6日～2024年6月5日)

利害関係人との取引状況

<優良日本株ファンド>

該当事項はございません。

<優良日本株マザーファンド>

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
株式	百万円 22,262	百万円 2,952	% 13.3	百万円 18,424	百万円 3,905	% 21.2

平均保有割合 93.0%

※平均保有割合とは、親投資信託の残存口数の合計に対する当該ベビーファンドの親投資信託所有口数の割合。

利害関係人の発行する有価証券等

<優良日本株マザーファンド>

種 類	買 付 額	売 付 額	当 期 末 保 有 額
株式	百万円 429	百万円 401	百万円 966

利害関係人である金融商品取引業者が主幹事となって発行される有価証券

<優良日本株マザーファンド>

種 類	買 付 額
株式	百万円 118

売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	25,570千円
うち利害関係人への支払額 (B)	4,821千円
(B) / (A)	18.9%

(注) 売買委託手数料総額は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものです。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱UFJモルガン・スタンレー証券、三菱UFJフィナンシャル・グループ、モルガン・スタンレーMUFJ証券です。

○組入資産の明細

(2024年6月5日現在)

親投資信託残高

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
優良日本株マザーファンド	千口 3,765,566	千口 4,362,793	千円 30,580,130

○投資信託財産の構成

(2024年6月5日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
優良日本株マザーファンド	千円 30,580,130	% 92.2
コール・ローン等、その他	2,584,461	7.8
投資信託財産総額	33,164,591	100.0

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2024年6月5日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	33,164,591,826
コール・ローン等	264,048,017
優良日本株マザーファンド(評価額)	30,580,130,252
未収入金	2,320,413,102
未収利息	455
(B) 負債	2,508,506,040
未払収益分配金	2,312,176,998
未払解約金	40,111,895
未払信託報酬	155,812,091
その他未払費用	405,056
(C) 純資産総額(A-B)	30,656,085,786
元本	15,414,513,325
次期繰越損益金	15,241,572,461
(D) 受益権総口数	15,414,513,325口
1万口当たり基準価額(C/D)	19,888円

<注記事項>

- ①期首元本額 12,462,185,896円
 期中追加設定元本額 4,309,364,842円
 期中一部解約元本額 1,357,037,413円
 また、1口当たり純資産額は、期末1.9888円です。

○損益の状況 (2023年12月6日～2024年6月5日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	29,537
受取利息	32,774
支払利息	△ 3,237
(B) 有価証券売買損益	4,046,056,093
売買益	4,277,057,328
売買損	△ 231,001,235
(C) 信託報酬等	△ 156,217,147
(D) 当期損益金(A+B+C)	3,889,868,483
(E) 前期繰越損益金	2,601,001,282
(F) 追加信託差損益金	11,062,879,694
(配当等相当額)	(4,491,207,113)
(売買損益相当額)	(6,571,672,581)
(G) 計(D+E+F)	17,553,749,459
(H) 収益分配金	△ 2,312,176,998
次期繰越損益金(G+H)	15,241,572,461
追加信託差損益金	11,062,879,694
(配当等相当額)	(4,515,265,973)
(売買損益相当額)	(6,547,613,721)
分配準備積立金	4,178,692,767

- (注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
 (注) (C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。
 (注) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

②分配金の計算過程

項 目	2023年12月6日～ 2024年6月5日
費用控除後の配当等収益額	371,362,309円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	3,518,506,174円
収益調整金額	11,062,879,694円
分配準備積立金額	2,601,001,282円
当ファンドの分配対象収益額	17,553,749,459円
1万口当たり収益分配対象額	11,387円
1万口当たり分配金額	1,500円
収益分配金金額	2,312,176,998円

○分配金のお知らせ

1万口当たり分配金（税込み）	1,500円
----------------	--------

- ・分配金は、分配後の基準価額と個々の受益者の個別元本との差により、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」に分かれます。
- ・分配後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合は、全額が普通分配金となります。分配後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となり、残りの額が普通分配金となります。
- ・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時に個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。

*三菱UFJアセットマネジメントでは本資料のほかに当ファンドに関する情報等の開示を行っている場合があります。詳しくは、取り扱い販売会社にお問い合わせいただくか、当社ホームページ (<https://www.am.mufg.jp/>) をご覧ください。

【お知らせ】

参考指数の株式等指数は「配当除く指数」から「配当込み指数」に変更しました。

旧指数：東証株価指数（TOPIX）

新指数：東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

優良日本株マザーファンド

《第30期》決算日2024年6月5日

〔計算期間：2023年12月6日～2024年6月5日〕

「優良日本株マザーファンド」は、6月5日に第30期の決算を行いました。
以下、法令・諸規則に基づき、当マザーファンドの第30期の運用状況をご報告申し上げます。

運 用 方 針	主として日本の株式に投資を行い、信託財産の成長をめざします。銘柄選定に当たっては、競争力のある優良企業の株式の中から、株価の割安度等に着目して30～50銘柄程度に投資を行います。当ファンドにおいて「競争力のある優良企業」とは、業界内のシェアや株主還元、財務の健全性等の観点で、相対的に評価が高いと委託会社が判断する企業をいいます。株式の組入比率は原則として高位を保ちます。
主 要 運 用 対 象	わが国の金融商品取引所上場株式を主要投資対象とします。
主 な 組 入 制 限	株式への投資割合に制限を設けません。 外貨建資産への投資は行いません。

○最近5期の運用実績

決 算 期	基 準 価 額		(参 考 指 数)		株 組 入 比 率	株 先 物 比 率	純 資 産 額
	期 騰 落	中 率	東 証 株 価 指 数 (TOPIX) (配当込み)	期 騰 落 中 率			
	円	%		%	%	%	百万円
26期(2022年6月6日)	48,681	0.1	3,133.45	1.0	97.1	—	24,785
27期(2022年12月5日)	49,470	1.6	3,187.97	1.7	97.9	—	23,938
28期(2023年6月5日)	57,002	15.2	3,685.98	15.6	97.8	—	24,436
29期(2023年12月5日)	59,487	4.4	3,932.53	6.7	98.0	—	24,451
30期(2024年6月5日)	70,093	17.8	4,668.91	18.7	97.6	—	32,807

(注) 基準価額動向の理解に資するため、参考指数を掲載しておりますが、当ファンドのベンチマークではありません。

(注) 東証株価指数(TOPIX)(配当込み)とは、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出される株価指数です。TOPIXの指数値及びTOPIXに係る標章又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利・ノウハウ及びTOPIXに係る標章又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額		(参 考 指 数)		株 組 入 比 率	株 先 物 比 率
	騰 落 率	騰 落 率	東 証 株 価 指 数 (TOPIX) (配当込み)	騰 落 率		
(期首) 2023年12月5日	円 59,487	% —	3,932.53	% —	% 98.0	% —
12月末	60,773	2.2	3,977.63	1.1	98.6	—
2024年1月末	65,473	10.1	4,288.36	9.0	98.4	—
2月末	68,880	15.8	4,499.61	14.4	98.8	—
3月末	70,622	18.7	4,699.20	19.5	97.7	—
4月末	69,201	16.3	4,656.27	18.4	97.9	—
5月末	70,371	18.3	4,710.15	19.8	97.7	—
(期末) 2024年6月5日	70,093	17.8	4,668.91	18.7	97.6	—

(注) 騰落率は期首比。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

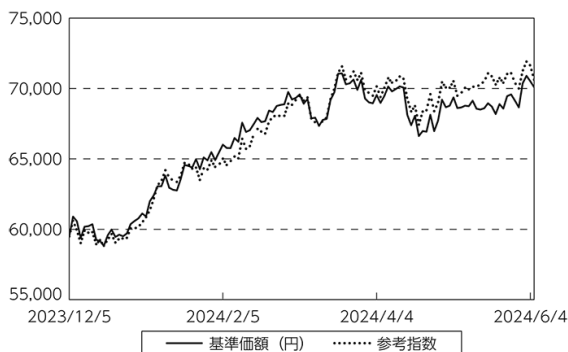
○運用経過

●当期中の基準価額等の推移について

◎基準価額の動き

基準価額は期間の初めに比べ17.8%の上昇となりました。

基準価額等の推移



(注) 参考指数は期首の値をファンド基準価額と同一になるよう指数化しています。

●基準価額の主な変動要因

(上昇要因)

半導体関連企業の業績拡大期待の高まりや外国為替市場で円安・米ドル高が進行したことなどを背景に国内株式市況が上昇したことが、基準価額の上昇要因となりました。

(下落要因)

日銀の金融政策修正後に国内長期金利が上昇したことなどをを受けて国内株式市況が一時的に下落したことが、一時的な基準価額の下落要因となりました。

(銘柄要因)

上位5銘柄…日立製作所、ソフトバンクグループ、三菱UFJフィナンシャル・グループ、大阪ソーダ、カプコン

下位5銘柄…日本製紙、伊藤園、SCREENホールディングス、大真空、日本電信電話

●投資環境について

◎国内株式市況

- ・国内株式市況は上昇しました。
- ・期間の初めから2024年3月末にかけては、半導体関連企業の業績拡大期待の高まりや外国為替市場で円安・米ドル高が進行したことなどを背景に国内株式市況は上昇しました。
- ・4月から期間末にかけては、引き続き外国為替市場で円安・米ドル高が進行したことなどは国内株式市況の下支えとなったものの、日銀が金融緩和策を修正するとの懸念が高まったことや金融政策の修正後に国内長期金利が上昇したことが嫌気されるなど、一進一退の展開となりました。

●当該投資信託のポートフォリオについて

- ・競争力のある優良企業の株式の中から割安と判断される銘柄に厳選して投資することにより、値上がり益の獲得をめざすべく、運用を行ってまいりました。また、組入銘柄・組入比率は割安度・競争力・業績動向などを総合的に考慮して決定しました。
- ・組入銘柄数は概ね49～54銘柄程度で推移させました。株価水準と企業の競争力や業績の変化などを勘案し、より割安と判断される銘柄への入れ替えを機動的・継続的に行いました。当期間では、プロセッサの設計を手がけるアーム事業の業績拡大を予想するソフトバンクグループ、国内金利の上昇による収益改善や株主還元の拡充を期待するりそなホールディングスなど20銘柄を新規に組み入れました。また、相対的な魅力度を勘案しLINEヤフーや伊藤園など20銘柄を全株売却しました。

○今後の運用方針

- ・わが国の競争力のある優良企業の株式の中から、割安度等に着目して30～50銘柄程度に投資を行います。
- ・投資の主な対象となる「競争力のある優良企業」とは、以下に該当する企業の中から、相対的に評価が高いと当ファンドが判断する企業です。
 - ・健全なバランスシートを保有している企業
 - ・業界内におけるシェアが高い企業
 - ・株主還元積極的に積極的な企業
- ・「競争力のある優良企業」の観点では、「業界内におけるシェアが高い企業」に注目しています。そうした企業は優れた製品やサービスを武器に中長期的に売上・利益を拡大させていくことが期待できます。今後も企業調査を強化し、「競争力のある優良企業」の発掘に注力します。
- ・日銀の金融政策変更による今後の金融環境を注視していく必要はありますが、国内における賃金上昇を背景とした購買力の高まりや企業の収益性重視の姿勢により国内企業業績の拡大が期待できると考えています。そうしたなか、「競争力のある優良企業」の中で、さらに「割安」な銘柄に厳選して投資することで、個別銘柄選択効果によるパフォーマンス向上に努める所存です。

○1万口当たりの費用明細

(2023年12月6日～2024年6月5日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式)	円 60 (60)	% 0.090 (0.090)	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
合 計	60	0.090	
期中の平均基準価額は、66,516円です。			

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2023年12月6日～2024年6月5日)

株式

国	上場	買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
内		千株	千円	千株	千円
		13,838 (627)	22,262,734 (-)	11,313	18,424,808

(注) 金額は受渡代金。

(注) ()内は株式分割・増資割当および合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

○株式売買比率

(2023年12月6日～2024年6月5日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	40,687,542千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	30,798,448千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	1.32

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

○利害関係人との取引状況等

(2023年12月6日～2024年6月5日)

利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
株式	百万円 22,262	百万円 2,952	% 13.3	百万円 18,424	百万円 3,905	% 21.2

利害関係人の発行する有価証券等

種 類	買 付 額	売 付 額	当 期 末 保 有 額
株式	百万円 429	百万円 401	百万円 966

利害関係人である金融商品取引業者が主幹事となって発行される有価証券

種 類	買 付 額
株式	百万円 118

売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	27,501千円
うち利害関係人への支払額 (B)	5,188千円
(B) / (A)	18.9%

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱UFJモルガン・スタンレー証券、三菱UFJフィナンシャル・グループ、モルガン・スタンレーMUFJ証券です。

○組入資産の明細

(2024年6月5日現在)

国内株式

銘柄	期首(前期末)		当 期 末	
	株 数	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千株	千円
建設業 (1.0%)				
安藤・間	338.8	—	—	—
奥村組	76.8	—	—	—
世紀東急工業	209.5	—	—	—
食料品 (1.1%)				
ライフドリンク カンパニー	90.2	—	—	—
伊藤園	119.8	—	—	—
ニチレイ	—	99.7	368,291	—
繊維製品 (2.2%)				
オンワードホールディングス	755.3	1,071.1	702,641	—
パルプ・紙 (0.4%)				
日本製紙	442.5	117.9	113,773	—
化学 (18.7%)				
クラレ	—	394.3	713,683	—
大阪ソーダ	227.5	238.3	2,237,637	—
三菱ケミカルグループ	—	639	532,478	—
中国塗料	321.5	321.9	637,040	—
D I C	—	199.6	642,712	—
アルマード	516	473.2	617,526	—
ユニ・チャーム	—	113.1	592,417	—
医薬品 (1.5%)				
ロート製薬	121.5	—	—	—
第一三共	80.8	84.7	472,202	—
ゴム製品 (1.0%)				
TOYO TIRE	190.2	—	—	—
鉄鋼 (0.5%)				
日本製鉄	103.8	51	170,493	—
非鉄金属 (3.9%)				
三菱マテリアル	201.4	181.5	530,524	—
SWCC	—	170	735,250	—
金属製品 (1.1%)				
東洋製織グループホールディングス	160.4	139.7	354,628	—
バイオラックス	126.2	—	—	—

銘柄	期首(前期末)		当 期 末	
	株 数	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千株	千円
機械 (5.1%)				
タツモ	103.4	147.3	522,915	—
マースグループホールディングス	166.7	94.8	359,292	—
日立造船	—	698.1	746,967	—
電気機器 (18.5%)				
日立製作所	107	111.1	1,773,156	—
JVCケンウッド	632	592.3	522,408	—
ジーエス・ユアサ コーポレーション	—	149.8	480,708	—
富士通	19.2	147.7	348,645	—
ルネサスエレクトロニクス	234.8	204.6	597,943	—
ソニーグループ	55.5	17.4	233,769	—
アドバンテスト	129.3	68	356,796	—
日本電子	71.4	—	—	—
大真空	—	351.8	239,575	—
S C R E E Nホールディングス	—	45.1	663,195	—
東京エレクトロン	—	21.2	711,048	—
輸送用機器 (6.9%)				
豊田自動織機	34.8	—	—	—
川崎重工業	147.8	150.9	845,492	—
トヨタ自動車	242.7	420.7	1,353,812	—
テイ・エス テック	31.8	—	—	—
精密機器 (1.0%)				
ニコン	213	—	—	—
オリンパス	261.4	130.1	335,007	—
その他製品 (3.4%)				
広済堂ホールディングス	—	635.1	383,600	—
T O P P A Nホールディングス	144.1	170.9	700,177	—
アシックス	71.3	—	—	—
陸運業 (1.0%)				
丸全昭和運輸	82.2	61.9	320,023	—
海運業 (1.8%)				
川崎汽船	—	249.1	589,121	—
情報・通信業 (10.1%)				
L I N Eヤフー	1,294.5	—	—	—

銘柄	期首(前期末)		当 期 末	
	株 数	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千株	千円
電通総研	53.8	—	—	—
ビジョン	225.2	—	—	—
カブコン	144.4	284.3	869,958	—
ソフトバンクグループ	—	251	2,364,420	—
卸売業 (8.8%)				
双日	168.4	136.1	536,370	—
ダイワボウホールディングス	96.5	140.4	382,379	—
阪和興業	100.5	116.7	713,037	—
東邦ホールディングス	28.6	—	—	—
サンゲツ	136.9	148.6	442,976	—
サンリオ	90.9	295.4	750,020	—
銀行業 (5.7%)				
三菱UFJフィナンシャル・グループ	543.3	588.3	966,576	—
りそなホールディングス	—	832.9	848,308	—

銘柄	期首(前期末)		当 期 末	
	株 数	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千株	千円
保険業 (3.4%)				
第一生命ホールディングス	275.5	85.8	340,969	—
東京海上ホールディングス	—	139	745,179	—
不動産業 (1.0%)				
大東建託	21.8	—	—	—
三井不動産	—	202.7	308,205	—
サービス業 (3.9%)				
アストロスケールホールディングス	—	139.3	191,537	—
サイバーエージェント	—	501	484,567	—
楽天グループ	—	673.8	558,714	—
リクルートホールディングス	65.8	—	—	—
藤田観光	69.9	—	—	—
合 計	株 数 ・ 金 額	株 数	株 数	評 価 額
	銘柄数 < 比率 >	50	50	< 97.6% >

(注) 銘柄欄の()内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率。
(注) 評価額欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

○投資信託財産の構成

(2024年6月5日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
株式	千円 32,008,175	% 91.0
コール・ローン等、その他	3,164,863	9.0
投資信託財産総額	35,173,038	100.0

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2024年6月5日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	35,173,038,369
コール・ローン等	1,217,403,497
株式(評価額)	32,008,175,860
未収入金	1,629,018,579
未収配当金	318,438,332
未収利息	2,101
(B) 負債	2,365,425,106
未払解約金	2,365,425,106
(C) 純資産総額(A-B)	32,807,613,263
元本	4,680,561,105
次期繰越損益金	28,127,052,158
(D) 受益権総口数	4,680,561,105口
1万口当たり基準価額(C/D)	70,093円

<注記事項>

- ①期首元本額 4,110,295,190円
 期中追加設定元本額 1,067,854,024円
 期中一部解約元本額 497,588,109円
 また、1口当たり純資産額は、期末7,0093円です。

②期末における元本の内訳(当親投資信託を投資対象とする投資信託ごとの元本額)

優良日本株ファンド	4,362,793,753円
三菱UFJ 優良日本株ファンド	317,767,352円
合計	4,680,561,105円

[お知らせ]

参考指数の株式等指数は「配当除く指数」から「配当込み指数」に変更しました。

旧指数：東証株価指数(TOPIX)

新指数：東証株価指数(TOPIX)(配当込み)

○損益の状況 (2023年12月6日～2024年6月5日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	414,408,917
受取配当金	414,353,232
受取利息	67,965
その他収益金	284
支払利息	△ 12,564
(B) 有価証券売買損益	4,204,780,339
売買益	5,218,918,054
売買損	△ 1,014,137,715
(C) 当期損益金(A+B)	4,619,189,256
(D) 前期繰越損益金	20,340,810,293
(E) 追加信託差損益金	6,060,720,055
(F) 解約差損益金	△ 2,893,667,446
(G) 計(C+D+E+F)	28,127,052,158
次期繰越損益金(G)	28,127,052,158

- (注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
 (注) (E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
 (注) (F)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。